

平成18年度事後評価結果（平成18年11月）

[研究開発課題名] 超高速知能ネットワーク社会に向けた新しいインタラクション・メディアの研究開発

[委託機関名] 株式会社 国際電気通信基礎技術研究所

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>本研究課題では「体験共有コミュニケーション」という従来にはない新しいコンセプトにもとづき、国際的にも先進性の高い研究成果が多く得られている。その結果、非常に多くの学术论文や特許といった成果に加え、実際の事業への展開が期待されるヒューマノイド型ロボットや匂いディスプレイという技術成果を得ることに成功している。これらの成果は本研究課題に充てられた予算に対して十分な費用対効果を持つものであり、当該分野の重要なマイルストーンとして将来的にも高く評価されるものであると考える。このように、個々の要素技術開発では卓越した成果を上げており、高く評価できるものの、知育メディア、五感メディアでの研究開発等、全体との関連が希薄であるものもあり、要素技術を統合したまとまり感という点にやや欠けるきらいがある。しかし、全体として見た場合、本研究開発は質・量ともに十分な成果を挙げ、順調な経過を辿ったプロジェクトと言える。</p> <p>(事業化関係)</p> <p>本研究開発成果を用いて、新規市場の開拓を目指した、ロボット関連7製品、香り提示装置関連4製品をパートナー企業から販売する計画である。ロボット関連製品については既に販売実績を有していること、香り提示装置関連製品についてはパートナー企業がそれぞれの市場で一定のシェアを獲得していることなどから、一定の収益納付が期待される。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。